



(左から) 秘書、医師、運転手、看護師の  
4人のチームで患者宅を訪問

神戸市西区では初の在宅医療専門クリニックとして2010年に開業した向原クリニックは「患者よし、医療者よし、地域よし」の「三方よし」を理念に掲げる。これまでの経験で「患者よし、だけでは現場が疲弊することを目の当たりにし、「医師や看護師が業務に専念できる体制を整え、人を増やし負担を減らせるかを当初

## 疲弊しない現場目指し

から考えていた」と院長の向原進一さん。患者数の増加に合わせ、医師に同行してカルテを入力する秘書を採用し、看護師も増員した。専門職を複数人体制にすることで負担やリスクを軽減し、職員が同時に休みを取っても業務が回る体制を築いていった。2年前に2人目の医師を採用。この2年で患者数が1・5倍になり、作業負担が増えたため、全職員の毎月の残業時間を表にして管理している。「同職種全体の残業が増えれば職員を増員し、ある個人の残業時間が増えれば業務分担の見直しを図っている」

以前は、各職種の代表1人ずつが集まっていた定例会議も、情報を共有するため全員参加型に変えた。

その結果、在籍7年が1人、6年が2人と長期在籍の職員が増えている。5年前に出産・育児を機に退職した職員から復職希望があったこともこうした取り組みの成果だ。「今後も職員がいきいきと働ける体制を整えていきたい」と話す。